

第二項 三十七、八年戰役以後時代

既記ノ如ク三十三年六月驅逐艦ヲ艦隊ニ編入スル場合一時的ニ驅逐隊ヲ編制スルコトヲ得ルコトトナ
 リ三十七、八年戰役ニ於テハ驅逐艦ハ本規定ノ儘戰時編制ニ依ル驅逐隊トシテ活動セルモノナルガ元
 來本規定ハ一時的ノモノナルト共ニ艦隊ニ編入セラレザル驅逐艦ニ適用セザルノミナラズ從來一般的
 ニ驅逐艦ガ軍艦ト同一ニ取扱ハレタル諸法規ハ之ガ運用上幾多ノ不合理不自然ヲ生ジ妥當ヲ缺クハ戰
 役及各種實迹ノ明示セル所ナルヲ以テ本戰役終結ヲ機トシ驅逐艦ト軍艦トハ截然之ヲ區分スルノ適當
 ナルヲ認メ三十八年十二月十一日ヲ以テ新ニ驅逐隊條例ノ公布ヲ見タルモノナリ左ノ如シ

驅逐隊條例

第一條 鎮守府及要港部ニハ必要ニ應ジ驅逐隊ヲ置ク

驅逐隊ハ驅逐艦二隻以上ヲ以テ編制ス

第二條 驅逐隊ニ左ノ職員ヲ置ク

司令 軍醫長 主計長

前項ノ外必要ニ應ジ司令附トシテ將校同相當官及下士卒ヲ置クコトヲ得

第三條 司令ハ所屬長官ノ命ヲ承ケ驅逐隊ヲ指揮シ部下ヲ董督訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ及隊務ヲ掌理ス

第四條 司令ハ第二條ニ掲グル職員ヲ部下ノ驅逐艦ニ分乘セシムルコトヲ得又教育訓練上必要ト認ムルトキハ部下甲驅逐艦ノ

乗員ヲ臨時乙驅逐艦ニ乗組マシムルコトヲ得

第五條 司令缺員中又ハ事故アルトキハ所在部下ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス

第六條 司令ハ特ニ指定ヲ受ケタルトキノ外部下驅逐艦中ニ就キ自己ノ乘艦ヲ定ム

第七條 司令ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ執行シ又ハ代理セシムルコトヲ得

第八條 軍醫長ハ司令ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第九條 主計長ハ司令ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十條 第二條第二項ニ掲ゲタル將校同相當官及下士卒ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十一條 艦隊其ノ他ニ驅逐隊ヲ附屬セシムルトキハ其ノ職員及其ノ職務ニ關シテハ本令ヲ適用ス

〔參照〕海軍艦船條例ノ一部摘錄(明治三十八年勅二五八改)

一、艦船ハ鎮守府ヲ本籍トス

二、艦船艦隊ニ編入セラレ、或ハ他ニ附屬スルトキハ各其ノ長官ニ屬スト雖本籍ヲ變セズ解役解除若クハ所屬ヲ免セラレルト

キハ別ニ命令ナクシテ本籍ニ復歸ス

三、艦船ノ種別左ノ如シ

軍艦、驅逐艦、水雷艇、潛水艇、運送船、病院船、工作船、雜役船種

而シテ從來軍艦ト同一法規ノ下ニ取扱ハレタル驅逐艦ヲ軍艦ト對立セシメタル理由ニ就キ當時舉示セルモノ左ノ如シ

我海軍ノ所謂驅逐艦ハ從來軍艦ノ一種トシテ取扱ヒ來リタルモ其ノ構造形狀大小性質竝ニ使用ノ目的等ハ大ニ軍艦ト異ル所アリ從ツテ之ヲ軍艦ト分タザルトキハ今日ノ實際ニ於ケルガ如ク省クコトヲ得ベキ軍醫主計等ノ定員ヲ必要トナシ省クコトヲ得

ベキ需品書籍等ノ定備ヲ必要トナシ依テ以テ驅逐艦ニ最モ必要ナル速力ヲ減殺スルニ至ラムトシ亦各種ノ法令例令バ禮砲條例
 旗章條例敬禮式等ノ適用ニ於テモ一々不都合ヲ生ズ而シテ此不都合ヲ除去センガ爲ニハ各條例ニ於テ一々驅逐艦ノ除外タルコ
 トヲ規定セザルベカラザル必要ハ即チ驅逐艦ガ軍艦ト當然其ノ取扱ヲ異ニスベキモノナルコトヲ自ラ事實ニ於テ證明スルモノ
 ナリ

亦今日ノ實際ニ於テ驅逐艦ガ軍艦トシテ個々獨立セルガ爲水雷艇驅逐艦ニ最モ必要ナル聯合動作ヲ缺クノ憾アリ之等ノ不利ヲ
 除去セムガ爲ニハ驅逐艦ヲ以テ其ノ實ノ如ク軍艦ニアラズ又水雷艇ニアラザル一種ノ艦船ト爲シ其ノ職員ニ關スルコトハ本條
 例中ニ規定スルヲ適當ト認ム

右驅逐隊條例制定ト同時ニ發布セラレタル驅逐隊及驅逐艦職員勤務令左ノ如シ

驅逐隊及驅逐艦職員勤務令(明治三十八年十二月) 摘要(達一九二號)

- 一、司令ハ其ノ隊ノ内規ヲ制定シ所屬長官ノ承認ヲ經テ之ヲ施行スベシ
- 二、司令ハ在役驅逐艦ヲシテ常ニ役務ニ支障無カラシムルコトヲ期スベシ
- 三、司令ハ豫備驅逐艦ノ就役準備ヲ整頓セシムルコトニ注意スベシ
- 四、司令ハ常ニ所屬驅逐艦ノ現狀並ニ性質等ヲ熟知スベシ
- 五、司令ハ部下ノ紀律ヲ維持シ之ヲ董督訓練シ各部署ヲ迅速正確ニ施行セシムルコトニ注意スベシ
- 六、司令ハ驅逐艦ヲ引率シテ航行スルトキハ航路ヲ指定シ其ノ安全ニ對シテハ自ラ責ニ任ズベシ
- 七、驅逐艦長ハ司令ノ命ヲ承ケ戰鬪防火防水其他諸般ノ部署ヲ定メ之ニ對シ乘員ヲ訓練シ精練ノ度ニ達セシムベシ
- 八、司令以下職員ノ勤務ニ關シ前諸條ニ掲ゲザルモノハ適用シ得ル限り軍艦職員勤務令ニ準據シ艦長ノ爲ノ規定ヲ司令ニ副長ノ爲
 ノ規定ヲ驅逐艦長ニ適用スベシ但シ驅逐艦長ハ司令ノ命アルトキハ其ノ部下ニ對シテハ艦長ト同一職權ヲ執行スベシ
- 九、驅逐隊ニ編入セラレザル驅逐艦ノ警務衛生及會計給與ニ關シ特令ナキトキハ直屬長官ニ於テ部下相當職員ヲ指定シテ之ヲ處理

同三十八年十二月二十日戦後初回ノ艦隊編制及任務ヲ定メラレ第一艦隊ニ若干ノ驅逐隊ヲ附屬ス

越ヘテ同四十一年十二月二十四日同編制及任務ヲ改定シ始メテ各艦隊毎ニ各艦種及編入スベキ隻數標準ヲ指定セリ但シ驅逐隊ニ就テハ必要ニ應ジ之ヲ附屬スルコトトセリ而シテ之等ノ實施ニ就テハ別ニ第四編第八章ニ詳記スルガ如シ

同三十九年十一月二十一日前顯驅逐隊條例ヲ廢止シ更ニ驅逐隊艇隊條例ノ公布ヲ見タリ本改正ノ主旨トスルトコロ左ノ如シ

- 一、水雷團條例ノ改正ニ伴ヒ從來驅逐隊ガ個々ニ鎮守府長官ニ隸屬セルヲ改メテ水雷團長ニ屬セシムルコトトナリシコト
- 二、右ニ伴ヒ從來艇隊ハ水雷團内ニ包容セラレ其ノ存在明確ナラザルノ憾アリシヲ改メ艇隊司令ヲ獨立部隊長ト同等ノ資格ヲ保タシメタルコト
- 三、從來艇隊ニ關スル獨立セル法規無ク水雷團條例ノ一部ニ含まレタルヲ改メ獨立ノ條例ヲ制定スルノ適當ナルヲ認メラレシト共ニ驅逐隊ト同一ノ取扱ヲ爲スノ可能ナルコト

本條例摘要左ノ如シ

驅逐隊艇隊條例(摘要)

一、要港部及水雷團ニハ必要ニ應ジ驅逐隊艇隊ヲ置ク

驅逐隊ハ驅逐艦二隻以上艇隊ハ水雷艇二隻以上ヲ以テ編制ス

二、驅逐隊艇隊ニハ各左ノ職員ヲ置ク

司令 機關長

前項ノ外必要ニ應ジ驅逐隊附又ハ艇隊附トシテ將校同相當官以下ヲ置クコトヲ得

三、司令ハ要港部司令又ハ水雷團長ノ命ヲ受ケ驅逐隊又ハ艇隊ヲ指揮シ部下ヲ蕭習訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ隊務ヲ掌

理ス

四、驅逐隊司令ノ乗ルトコロノ驅逐艦ヲ司令驅逐艦ト稱シ艇隊司令ノ乗ル所ノ水雷艇ヲ司令艇ト稱ス

五、機關長ハ司令ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器ニ關スルコトヲ掌ル

六、艇船其ノ他ニ驅逐隊艇隊ヲ附屬セシムルトキハ其ノ職員及職務ニ關シテハ本條例ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ要港部司令官又ハ

水雷團長ノ職權ヘ直屬長官之ヲ行フ但シ會計經理ノ事務ハ本屬要港部又ハ水雷團ノ所掌トス

本條例ノ發布ト共ニ從來ノ驅逐隊及驅逐艦職員勤務令ヲ廢止シ新ニ驅逐隊艇隊及驅逐艦水雷艇職員勤務令ノ制定ヲ見タリ但シ其ノ内容ニ於テハ司令ノ所屬、醫務衛生、會計經理ニ關スル從屬系統等ニ於テ前者ニ幾分ノ改變ヲ見タルノミ

本條例及職員勤務令ハ其ノ後幾多ノ改變アリ即チ從來潜水艇隊ニ關スル此ノ種法規ハ全然驅逐隊艇隊ニ關スルモノトハ別個ニ制定セラレタリシガ大正二年之等水雷艦艇關係法規ヲ一括セラレ驅逐隊艇隊潜水艇條例竝ニ驅逐隊艇隊潜水艇隊及驅逐艦水雷艇潜水艇職員勤務令トナリ艇隊及水雷艇廢セラレ

掃海隊及掃海艇ノ生起ニ伴ヒ大正八年四月一日ヲ以テ再轉シテ驅逐隊、潜水隊掃海隊令竝ニ驅逐隊潜水隊掃海隊職員服務規程ニ改ム

昭和四年現行ノ之等法規ヲ左ニ摘録シ參考ニ供ス

第一、驅逐隊、潜水隊、掃海隊令(大正八年三月軍令海第三號)摘録
(大正十二年軍令海四改)

- 一、驅逐隊ハ驅逐艦二隻以上、潜水隊ハ潜水艦二隻以上、掃海隊ハ掃海艇二隻以上ヲ以テ編制ス、驅逐隊、潜水隊、掃海隊ハ編成ニ因リ第一驅逐隊、第二潜水隊又ハ第三掃海隊ト稱ス
- 二、驅逐隊、潜水隊、掃海隊ニ各左ノ職員ヲ置ク

司令 機關長

前項ノ外必要ニ應ジ驅逐隊及掃海隊ニハ軍醫長主計長ヲ置キ又ハ驅逐隊附潜水隊附又ハ艇隊附トシテ士官以下ヲ置ク

- 三、驅逐隊、潜水隊、掃海隊ノ編制及定員ハ別ニ之ヲ定ム
- 四、司令ハ直屬長官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ隊務ヲ總理ス
- 五、司令ノ乗ル所ノ驅逐艦、潜水艦又ハ掃海艇ヲ各司令驅逐艦、司令潜水艦又ハ司令艇ト稱ス
- 六、機關長ハ司令ノ命ヲ承ケ隊ノ機關ニ關スルコトヲ掌リ各艦隊機關長ノ職務及機關科員教育訓練ヲ監督シ主管ノ兵備品ヲ整備ス
- 七、軍醫長ハ司令ノ命ヲ承ケ隊ノ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌リ主管ノ兵備品ヲ整備ス
- 八、主計長ハ司令ノ命ヲ承ケ隊ノ會計、給與及厨業ニ關スルコト竝ニ庶務ヲ掌リ主管ノ兵備品ヲ整備ス
- 九、驅逐隊、潜水隊、掃海隊職員常務ノ細項ニ關シテハ海軍大臣之ヲ定ム

第二、驅逐隊、潜水隊、掃海隊職員服務規程(大正八年三月達第三十四號)摘要
(大正十二年達一五二改)

- 一、司令ハ部下艦艇内ノ編制諸般ノ部署及職則ヲ定メ之ニ依リ部下ヲ訓練シ又常ニ之ガ適否ヲ研究シ其ノ改善ヲ圖ルベシ

- 二、司令ハ隊ノ内規ヲ制定シ所屬長官ノ認許ヲ承ケ之ヲ施行スベシ
- 三、司令ハ部下在役艦艇ヲシテ常ニ役務ニ支障無カラシメ又部下豫備艦艇ノ就役準備ヲ整頓セシムルコトヲ努ムベシ
- 四、司令ハ常ニ部下艦艇ノ現状及性質等ヲ熟知スベシ
- 五、司令ハ部下艦艇ヲ引率スルトキハ航路及泊地ヲ指定シ其ノ安全ニ對シ自ラ之レニ任ズベシ
- 六、司令ハ同所ニ在ル部下艦艇ノ時刻ヲ整一ナラシムベシ
- 七、司令ハ部下艦艇ヲ率キテ航行中ハ天候ノ模様又ハ其ノ他ノ必要ニ應ジ艦艇ノ集合點ヲ指示スベシ
- 八、潜水隊司令ハ部下潜水艦繫泊又ハ碇泊中艦ノ保安ニ必要ナル者ヲ除クノ外乗員ヲシテ兵舍母艦又ハ母艦内ニ宿泊セシメ又之ニ充ツベキ兵舍無キ地ニ於テ母艦母艇ノ現在セザルトキハ上陸宿泊セシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ速ニ之ヲ所屬長官ニ報告スベシ
- 九、司令其ノ隊ヲ離ルルトキハ必ず驅逐艦長、潜水艦長又ハ艇長中隊ノ保安ニ任セシムベキ者ヲシテ在隊セシムベシ
- 十、司令ハ部下驅逐艦長、潜水艦長又ハ艇長其ノ艦艇ヲ離ルルトキハ止ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外各艦艇ノ保安ニ任セシムルニ適當ナル將校ヲシテ在留セシムベシ
- 十一、司令ハ部下艦艇ニ於ケル當直勤務ニ關シテハ艦船職員服務規程ニ依ルノ外航海中ニ在リテハ必要ニ應ジ乘組特務士官、准士官ヲシテ兵科佐尉官機關科佐尉官監視ノ下ニ當直將校、機關科當直將校ノ勤務ヲ執ラシムルコトヲ得但シ此場合當直將校又ハ機關科當直將校ノ勤務ニ服スベキ者ノ全數ハ各四名ヲ超過スルコトナク又監視ノ兵科佐尉官機關科佐尉官ヲシテ航泊日誌機關科日誌ニ署名シ當直ノ責ニ任セシムベシ
- 十二、司令ハ前諸條ニ規定セザル事項ニ付テハ驅逐艦長、潜水艦長又ハ艇長ヲ指揮シ適用シ得ル限り艦船職員服務規程中艦長ニ關スル規程ニ依ルベシ
- 十三、機關長、軍醫長、主計長其ノ他諸職員ハ適用シ得ル限り艦船職員服務規程ノ規定ニ依リ服務スベシ

之ヨリ先キ潜水艇ノ出現ニ伴ヒ明治三十八年一月十三日內令第四十號ニ依リ潜水艇隊條例ノ制定ヲ見

鎮守府司令長官ニ直屬スルノ制タリシガ潜水艇ノ現狀ト其ノ經理上ノ得失ニ鑑ミ潜水艇ノ改良發展ヲ期セムニハ鎮守府直屬ヨリモ寧ロ水雷團ニ附屬セシムルヲ可ト認メ四十二年四月ヲ以テ水雷團所屬ニ改定セラレタリ、然ルニ大正二年水雷隊ノ編成ヲ見ルニ及ビ同年三月二十四日軍令海第七號ニ依リ新ニ驅逐隊艇隊潜水艇隊條例發布セラレ從來單行條例タリシ潜水艇隊條例ハ消滅スルニ至レリ潜水艇隊(潜水隊)ニ關スル爾後ノ經過ハ既述ノ如シ

驅逐隊、潜水隊等ノ職員勤務ニ關シテハ現行艦船職員服務規程(大正八年六月二十三日達第百十一號)令達、爾後數次小改定)總則中ニ左記ノ指令ヲ見ル

驅逐隊、潜水隊、掃海隊、防備隊、航空隊及海兵團職員並ニ司令部附特務士官以下ノ勤務ニ關シテハ爲シ得ル限り本規程ヲ準用ス

本節ニ關スル各種部隊編制組織等ヲ掲記スルコト別紙ノ如シ

(別紙)

第五 驅逐隊(朝風、春風型)

第一、水雷科職掌分擔、變遷沿革

一、竣工當時ニ於ケルモノ

(一) 水雷長兼分隊長(二分隊長)

少佐 大尉

一

發射指揮官、爆雷指揮官、掃海指揮官、通信指揮官

(4) 乗組

中少尉

一

通信士(操銃士官)

(5) 乗組(掌水雷長)

特務中少尉

一

發射、掃海、爆雷、指揮官補佐

二、其ノ後變遷ナシ

第二、水雷砲臺區分ノ變遷沿革

一、竣工當時ノモノ

一番五十三種ニ聯裝水上發射管

二番五十三種ニ聯裝水上發射管

三番五十三種ニ聯裝水上發射管

水雷火藥庫

爆藥庫

爆雷投射機

爆雷落下機(水壓立ニ手働)

大掃海具三號

一番探照燈(四十種)

二番探照燈(七十五種)

二、大正十五年八月内令第百六十二號ニ依リ一番、二番探照燈ヲ除カル

第三、水雷分隊編制配員ノ變遷沿革

一、竣工當時ニ於ケルモノ

分隊長 少佐大尉 一

計	電 信 員	掃 海 員	爆 雷 落 下 機 員	爆 雷 投 射 機 員	爆 雷 庫 員	水 雷 火 藥 庫 員	發 射 幹 部 附	二 番 探 照 燈 員	一 番 探 照 燈 員	三 番 五 十 三 種 聯 管 員	二 番 五 十 三 種 聯 管 員	一 番 五 十 三 種 聯 管 員	水 雷 砲 臺 下 士 官	戰 闘 配 置	配 員	下 士 官 兵 員 數	記 事
三 二	三	兼 一 六	兼 八	兼 六	兼 一	兼 一	兼 一 五	一	一	七	七	七	一				
		一、二、三番聯管員兼務	一、三番聯管員兼務	二番聯管員兼務													

二、大正十五年八月内令第百六十二號ニ依リ右表中左ノ通改メラル

(一)、二番探照燈員ノ項削除

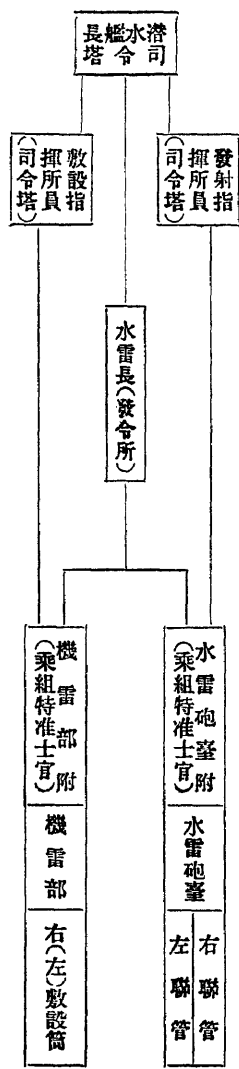
(二) 發射幹部附、水雷火藥庫員、爆雷庫員ノ兼務及専務配置ニ異動アリ

(三) 下士官兵、總員數ニ變化無シ(三二)

第九潜水隊 (伊二三潜)

一、水雷砲臺區分表

(一) 發射(敷設)指揮系統



(二) 發射(敷設)幹部員ノ編制

戰 闘 配 置	員 數	所 掌 業 務	記 事
發射(敷設)指揮官	一	發射(敷設)指揮 標準發射	潜航中ハ艦長水上ノ場合 艦長又ハ水雷長

二、水雷分隊表

水雷砲臺 機雷部	(司令塔) 指揮所員	發射(敷設) 指揮要員
	通報器員	發射電鑰 操作
傳令員	發射機(敷設筒)側 操作	發射電鑰 操作
一	一	一
發射機(敷設筒)側 操作	發射機(敷設筒)側 操作	發射機(敷設筒)側 操作
		一名 水兵員 機關員

(一) 水雷砲臺

右聯管員

四

左聯管員

四

(二) 機雷部

右敷設筒員

四

左敷設筒員

四